

VII. 随想

認知症とてんかん

堀 智勝（森山脳神経センター病院 院長）



私は約5年前に脳神経外科認知症学会を関西医科大学名誉教授河本圭司先生とご相談して設立した。その後不幸にも河本先生がご逝去されたために、私が同学会の理事長に就任した。今年は第5回の脳神経外科認知症学会が帝京大学溝の口病院の中根 一先生が会長でWebのみの開催で行われる予定となっている。コロナ禍の昨今全ての学会が甚大な影響を受けて開催形式も種々の形態で行われているが、ワクチンの接種が医療関係者・高齢者に始まっており、事情が好転してくれることを祈念している。今年のとてんかん研究財団研究会もウェブ開催という形をとったが、ある意味では旧来の開催形式を今後変更するような契機になったとも言え、この事が当財団にとっても禍を転じて福と為す、分岐点になれば幸いである。

私はてんかん学会にも関係しており、認知症とてんかんの関係に興味を持ってどれだけの合併率があるのかを多施設で研究をしてみたいと思っている。アルツハイマーの患者さんの海馬に卵円孔経路で深部電極を挿入して深部脳波を記録したところ表面脳波では明瞭でなかったてんかん性の活動が非常に活発に記録されたという論文は大変衝撃的であった。アミロイド β あるいはタウが海馬など内側側頭葉に貯留してそれがてんかん性異常脳波を惹起していると推定されているが、果たしてアミロイドやタウだけが原因物質であるのか他の物質も関連しているのか、原因物質を除去する薬剤の開発も最近有効性・安全性の面で実用性のある薬剤の開発もそろそろ出てきているようだが、私が新百合ヶ丘総合病院の超音波集束装置を使用してある程度の効果を認めた6例のとてんかん治療経験もそろそろ英文に纏めて発表しようかと思っているが、折しも脳神経外科認知症学会での教育講習会で認知症に有効な外科的治療法についての講演を用意している昨今に、超音波により一過性のBBBを開くことによってなんの薬剤も使用せずにFDG-PETでアミロイドの減少が証明されたという論文を読んでまさに脳神経外科医が認知症学会などを立ち上げて何か意味があるのかというご意見もあったかと聞いているが、これからは認知症の世界にてんかんと脳外科的素養が必要になったと確信するに至った。丁度この6月に私が勤務する森山脳神経センターにはFUSセンターが開設され、本態性振戦や薬剤抵抗性でDBSの適応外のFUS治療が始まる。BBB openingにも側頭葉てんかんのFUS治療にも現在の670Hz transducerでは治療困難であり220Hzのtransducerが必要になるが、FUS製造会社ではまだその使用を一般化する事を許容していない。しかし、必ずや近い将来に認知症やてんかんの治療に220HzFUS治療がpopularになることを予想している。

このような妄想に耽っているとコロナに罹りして死ぬのは犬死で、世の中の変遷をこの目で確認してから死ぬのでも遅くないのではないかと、もう少し長生きしようとして最近願っている今日この頃である。以上後期高齢者の戯言をお聞き戴き恐縮いたしております。